

第3学年 国語科学習指導案

ろ組 男子19名 女子20名 計39名

指導者 中野 晶 仁

1 単元 本と友だちになろう（教材「三年とうげ」光村3年上）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第2学年「本と友だちになろう」の学習で、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む能力を身に付けてきている。また、楽しんだり知識を得たりするために読書しようとする態度も身に付けてきている。さらに、読んだ本の内容に関連した他の本や文章などを読んだり、気に入った本を取り上げて紹介したりしたいという願いをもっている。

そこでここでは、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などについて叙述を基にして読み取る能力や、いろいろな読み物を読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「本と友だちになろう」（教材「三年とうげ」）を設定した。

この学習は、情景を想像させる言葉を手がかりに読み取ったり、シリーズものや同じ作家の本の読書をふまえていろいろな種類のおすすめの本を紹介しあったりする「本と友達になろう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「三年とうげ」は、朝鮮半島に伝わる民話である。全体に流れるリズムやテンポの良さは、語り継がれた昔話や民話の特徴を伝えている。言い伝えの歌のとらえ方によりおじいさんの気持ちに変化していく展開がおもしろく、楽しみながら読める本教材は、この期の子どもたちに適した教材である。また、「すつとんで」「はね起きました」などの複合語が効果的に使われたり、起承転結という構成で物語が分かりやすく展開されたりして、イメージ豊かに読み進めることができる。

そこで、本単元では、**「三年とうげ」のおもしろさを紹介することにより、一人一人の感じ方に違いがあり、いろいろな読みものを読み、紹介することを目的に読み進めていく。**その際、登場人物の性格や気持ちの変化について話し合う活動を通して、自分の感じ方をとらえさせる必要がある。その際、単元の終末に気に入った本を選んで紹介する「読書紹介」を行うという見通しをもたせて学習していくことが大切である。

具体的にはまず、これまでに読んだことのある日本や世界各国の民話・物語について読書紹介を行い、一人一人好きな本が違うことに注目させたり、友達が紹介する本を読ませたりすることで意欲をもたせ、読書への関心を高める。また、教師が作成した本の帯を提示し、目的に応じて、より分かりやすく本の紹介を行うことを知らせることで見通しをもたせ、単元への意欲付けを図る。

次に、教材文「三年とうげ」を、場面の移り変わりやおじいさんの気持ちの変化などを叙述に基づいて読み、各場面で読み取った内容について本の帯にまとめさせる。その際、会話文や行動、様子を表す言葉などに着目して読み取ることを具体的な観点として示し、まとめさせる。また、**三年とうげの本の帯を作ることで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせ、自分が選んだ本を紹介する時に必要となる観点を確認**する。

さらに、終末では、各自が作成した本の帯を使って本の紹介を行い、友達と自分の読みの観点の違いから読書の楽しさについて考えさせたり、いろいろな読み物への興味が広がったりしたことに目を向けさせる。その際、帯に書かれたどの内容から読んでみたいと思ったのかをカードに記入させ、相互評価させる。

このような学習を通して得られる能力や態度は、叙述に即して情景を読みとることや、相手や目的に応じて分かりやすく相手に伝えようとする態度に結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習について本教材をどのように受け止め、どのような興味や関心を持っているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は人数を示す。)

<p>① 初発の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も三年とうげに行って転びたい。(11) ・ おじいさんが何回も転んでいるところがおもしろかった。(8) ・ トルトリの考えがすごかった。(5) ・ 木のかげから聞こえる歌がおもしろかった。(3) ・ 転んだけど最後はおじいさんが元気になってよかった。(3) ・ おじいさんが何回も転んだことが不思議だ。(3) ・ どうして慎重に歩いたのに転んだのか。(2) ・ いっぱい転んだら長生きできることにびっくりした。(2) ・ こんな山があったら大変だ。(1) 	<p>② 疑問に思ったこと (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして三年とうげで転んだら3年しか生きられないのか。(18) ・ どうして三年とうげの言い伝えができたのか。(11) ・ 木のかげから歌を歌ったのはだれだったのか。(7) ・ トルトリは、なぜ長生きできると気づいたのか。(5) ・ どうしてうれしくなったのか。(2) <p>③ おじいさんの気持ちの変化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">悲しい(7) こわい(7) 転んではいけない(2)</td> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">⇒</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">うれしい(22) 長生きできる(4) 転びたい(2)</td> </tr> </table> </div>	悲しい(7) こわい(7) 転んではいけない(2)	⇒	うれしい(22) 長生きできる(4) 転びたい(2)
悲しい(7) こわい(7) 転んではいけない(2)	⇒	うれしい(22) 長生きできる(4) 転びたい(2)		
<p>④ 気持ちの変化した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トルトリに長生きの方法を教わったから (24) ・ 三年とうげで転んだから。(4) ・ 長生きできるようになったから。(2) ・ ふとんの中に閉じこもっていたから。(1) ・ 無回答(3) 	<p>⑤ 難解句 (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おいおい(22) ・ とうげ(17) ・ ふでりんどう(17) ・ たんもの(11) ・ がまずみ(10) ・ ぬるで(10) ・ 真っ青(8) ・ なだらか(7) ・ さきみだれる(5) ・ 水車屋(5) ・ えいやら(4) ・ さしかかる(3) ・ かんびょう(2) ・ うっとり(2) ・ はねおきる(1) 			
<p>⑥ 読書のよさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字や言葉を使えるようになる(15) ・ 勉強になる・頭がよくなる(11) ・ 夢が広がる(3) 	<p>⑦ 本を紹介したい方法 (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本(15) ・ 劇(15) ・ 本の帯(14) ・ 本の紹介カード(10) ・ 絵(9) ・ 紙芝居(7) ・ 音読(7) ・ 作文(6) 			

子どもたちのほとんどは、「3年とうげのこと」、「おじいさんのこと」に興味をもっているが、おじいさんの気持ちに目を向けた感想や疑問は少ない。(①②) これは、難語句の「おいおいないた」「真っ青」などの意味が分からず、教材文を正確に捉えることができなかつたからだと考ええる。(⑤) また、おじいさんの気持ちの変化をとらえている児童もいるが、その理由は漠然としており、歌の解釈やおじいさんの言動と結びつけている子どもは少ない。(③④) このことは、これまでの学習で、人物の気持ちや性格に目を向ける学習の経験が少ないからだと考える。

また、読書の必要性については、多くの子どもが認識しており、様々な方法で本の紹介を行いたいと考えている。(⑥⑦) しかし、読書と学習を結びつけて考える子どもたちが多い反面、そのおもしろさについて目を向けている子どもは少ない。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、登場人物の気持ちの変化を叙述を基に想像して読ませるために、言葉の意味を確認させる。また、本の楽しさを感じ取らせるために、**おもしろかった部分の書き抜きや要約をさせて本の帯を書かせ、読書紹介させる**ことが大切である。

ア 登場人物の気持ちの変化を考えさせるために、**会話文や行動、様子を表す言葉に注目させて、本の帯を作らせる**。また、読み取った内容についておもしろかったことや不思議なことなどの自分の考えをまとめさせ、それぞれの感じ方の違いに気付かせたい。

イ 本の帯を作る学習では、本のおもしろいところを紹介するために、キーワードや要点を読み取ることが必要となる。そこで、「三年とうげ」の学習で、「起・承・転・結」それぞれの場面ごとに**本の帯を作成し、それを相互評価させる**ことでキーワードや要点を確認させる。

ウ 読書のおもしろさに気づかせたり今後の読書意欲を高めたりするために、**読書紹介や互いの本の帯のよさを伝え合う活動を取り入れる**。

3 単元の目標

- (1) 読書紹介を行うことに興味を持って、本の帯作りに取り組み、自分が紹介したい本を探して読もうとすることができる。
- (2) 本の紹介をする際に、自分の書いた本の帯と友達の書いた本の帯とを比較しながら読み、読書への意欲を高めることができる。
- (3) 紹介したい本を読み、自分が感じたことを伝え合うことによって、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

4 指導計画

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ	
つかむ・みとおす③	本の帯で本をしょうかいするって楽しそうだな。	1～2 教材への興味の喚起と学習目標・計画の立案 「友だちに本のおもしろさをしょうかいしよう。」 ・ 図書室での本の選択 ・本の帯のモデル提示 ・ 本の帯作り ・単元の目標設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 本のおもしろさをしょうかいし合って、本の世界を広げよう。 </div> 「学習計画を立てよう。」 ・ 学習計画の立案 ・教材の音読	○ 活動への興味・関心を高めるために、単元名の「友だちになろう」という言葉に着目させ、これまでの読書経験を想起させる。 ○ 本の帯のよさを感じさせるために、教師の作成した本の帯を提示する。 ○ どのようなおもしろさを紹介すればよいか考えさせるために、教材を読み、初発の感想からおもしろさを分類し、観点をつかませる。 ○ 登場人物の行動のおもしろさをとらえさせるために、おじいさんの行動に関する叙述を抜き出させ、それらの叙述を関係付けて考えさせる。 ○ 物語の筋のおもしろさに気付かせるために、歌に焦点を絞り、歌の内容を比較させる。 ○ 物語のおもしろさを反映した本の帯にするために、紹介内容を裏付ける叙述を探させる。 ○ 読んだ本のおもしろさを自分なりにとらえさせるために、おもしろいと感じた部分をノートにメモさせる。 ◎ 観点がはっきりしない子どもには、「三年とうげ」の本の帯作りで学習した観点を掲示する。 ○ 「自分が紹介したい本」の帯を作成することができたことを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させ、その理由や自分が考えたことを書かせる。	
	なかなかうまくしょうかいできないな。			3～7 「三年とうげ」の各場面の読み取り 「三年とうげとは、どんなとうげなのだろう。」 「転んだおじいさんはどんなことを考えただろう。」 「おじいさんはどうして三年とうげでわざとひっくりかえったのだろう。」(本時) 「おじいさんはどのように転がったのだろう。」 「ぬるでの木のかげからだれが歌ったのだろう。」 ・ 各場面の帯の作成 8～10 「三年とうげ」の本の帯の作成 『三年とうげ』の本のおびを作ろう。 ・ 紹介するおもしろさの選定と紹介内容の検討 ・ 紹介する項目、見出し等の工夫 ・ グループ内での相互紹介
	どんなことをしょうかいすればよいのかな。			
しらべる・ふかめる⑦	転んだおじいさんはどうなるのだろう。	11～15 「自分が紹介したい本」の帯の作成 「図書室でしょうかいしたい本をさがそう。」 ・ 紹介したい本探し ・紹介したい本の読書 『自分がしょうかいしたい本』のおびを作ろう。 ・ おもしろさを基にした本の帯作成 ・ 呼びかけ・問いかけ等の書き方や見出しの工夫	自分選択した本の帯作成	
	トルトリはかしこい人だなあ。(本時)			16 学習の評価・振り返り 「本のおびを書き直して読み合おう。」
ふりかえる④	おじいさんが元気になってよかったなあ。	○ 読んだ本のおもしろさを自分なりにとらえさせるために、おもしろいと感じた部分をノートにメモさせる。 ◎ 観点がはっきりしない子どもには、「三年とうげ」の本の帯作りで学習した観点を掲示する。 ○ 「自分が紹介したい本」の帯を作成することができたことを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させ、その理由や自分が考えたことを書かせる。		
	どの観点で書けば、この物語のおもしろさが伝わるかな。			
いかす②	しょうかいしたいおもしろさは、分かりやすく伝わっているのかな。			
	伝えたいおもしろさが、きちんと伝わる本の帯を書くことができたぞ。			

5 本 時(5/16)

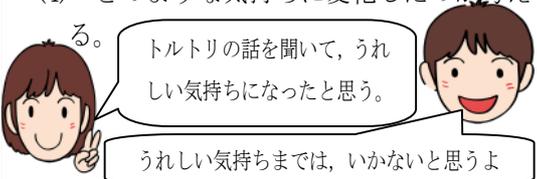
(1) 目 標

「うなずきました」「はねおきると」などの表現に着目して、おじいさんの気持ちの変化を読み取り、**キーワードを抜き出したり文章を要約したりして、本の帯にまとめる**ことができる。

(2) 本時の展開に当たって

おじいさんの気持ちの変化を読み取らせるために、前時までのおじいさんの気持ちや言い伝えを想起させた上で、トルトリの新しい言い伝えの解釈に着目させたい。そして、**本の帯に書いた方がいいことを話し合わせ、書く観点に基づいて書かせる**。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ
つかむ	1 前時までの学習を基に、本時の学習範囲を確認する。 2 本時の学習範囲を読み、課題を設定する。 おじいさんはどうして三年とうげでわざとひっくりかえったのだろう。	7	○ 学習に主体的に取り組ませるために、前時の学習を想起させ、これまでのおじいさんの気持ちを確認する。 ○ 学習課題を明確につかませるために、おじいさんの気持ちが分かるところを探しながら音読させる。
みとおす	3 学習の進め方を確かめる。 ○ 気持ちが変わった理由を確かめる。 ○ どのような気持ちに変化したのか話し合う。 ○ 3の場面の本の帯を作り、発表する。	7	○ 学習の見通しをもたせるために、おじいさんの気持ちの変化について考え、本の帯にまとめるという手順を確認する。 ○ おじいさんの気持ちの変化をおさえさせるために、気持ちが落ち込んでいる様子が分かる部分を会話や叙述の表現から探させ、そのときの気持ちを考えさせる。その後、おじいさんの気持ちが上向いてきた部分を叙述の中から探させ、全体で確認する。
しらべる	4 おじいさんの気持ちの変化を確認する。 (1) 気持ちが変わったことを確かめる。 (2) 教材文のどの部分で気持ちが変わったのかが分かるのか考え、発表する。 (3) 気持ちが変わった理由を読み取る。 (4) どのような気持ちに変化したのか考える。 	15	○ 気持ちが変わった理由を確認させるために、トルトリの話に着目させ、言い伝えの歌との相違を考えさせる。 ○ 本の帯に載せるキーワードとするために、おじいさんの気持ちを短くまとめさせる。
ふかめる	5 3の場面の本の帯を作り、グループや全体で発表する。 (1) 要点をまとめたり、要約したりして本の帯を作成する。 (2) グループの中で発表し合い、互いの作品のよかったところを話し合う。 (3) 各グループの代表の作品を全体で紹介する。	20	○ 必要のある事柄を収集したり選択したりする技能を高めるために、本の帯に載せる内容について確認させる。 ㊦ 本の帯を書くことが難しい児童のために、どこに何を書けばよいのかが分かる本の帯を用意する。 ○ 互いの作品のよいところを探したり、模範となる本の帯を見たりすることで、本の帯を書く観点を考えさせる。
ふりかえる・いかす	6 本時のまとめ、自己評価をする。 トルトリのアドバイスによって、かなしさから助かるかもしれないという気持ちにかわったから。 7 次時の学習について話し合う。	3	○ 友達との意見交換を基に、おじいさんの気持ちの変化が分かり、本の帯を作ることができた喜びを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。